会記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 植物地理・分類学会, The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00053574

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

会　　記

2013 年度会計報告（2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日）

○植物地理・分類学会

収入（A）	2,032,281円	支出（B）	3,041,957円
会費	1,955,350	雑誌印刷費（60-1, 60-2, 61-1）	2,548,650
バックナンバー売上	20,000	雑誌送料（60-1, 60-2, 61-1）	148,040
利息	192	通信費	17,380
雑収入	2,520	英文校閲費（2013）	0
総会参加費等	54,219	庶務事務費	125,525（内訳）
		アルバイト（発送作業等）	24,000
		文具等	11,435
		封筒印刷費	39,900
		雑誌封入発送代行	47,110
		雑支出	3,080
		ニュースレター送料	77,840
		会議旅費	68,000
		自然史学会連合負担金	20,000
		総会関係	0（内訳）
		運営費	0
		会場アルバイト	0
		会員名簿作成	36,522（内訳）
		事務費	12,950
		連絡ハガキ代	23,572

差引（A － B）△ 1,009,676 円

次年度への繰越金（前年度繰越金 2,496,847 ＋△ 1,009,676）　1,487,171 円

○植物地理・分類学会後援会

収入（A）	1,058,743円	支出（B）	209,656円
醵金	765,442	選考会議費	52,000
前年度繰越金	293,301	授賞金	100,000
		受賞者旅費	57,000
		大会用消耗品	656

差引（A － B）849,087 円（次年度への繰越金）

新入会員（2014 年 4 月～ 2014 年 8 月）

4 月 17 日　星山　耕一　〒 420-0885　静岡市葵区大岩町 2-10-202

5 月 16 日　石澤　岩央　〒 930-0974　富山市長江 4-2-22

退会会員（2014 年 4 月～ 2014 年 8 月）

中村　武久　〒 157-0074　東京都世田谷区大蔵 1 丁目 2-1-803　（死去）

橋本竹二郎　〒 470-1141　愛知県豊明市阿野町林ノ内 3-6

菅野　修三　〒 971-8172　いわき市泉玉露 5 丁目 18-17

村田　源　〒 615-8282　京都市西京区松尾大利町 20-55

住所・氏名変更及び訂正（2014 年 4 月～ 2014 年 8 月）

藤田　淳一　〒 390-1701　松本市梓川倭 3708-1　（株）環境アセスメントセンター北信越支社　→　〒 399-0005　松本市野溝木工 1-3-29 ヒルトワタナベ 201　東京コンサルタンツ（株）長野事務所

富田　啓介　〒 464-0021　名古屋市千種区鹿子殿 16　4-52　→　〒 244-0815　横浜市戸塚区下倉田町 1223　第 1 吉原ハイツ 202

宮下　啓子　〒 930-8555　富山市五福 3190　富山大学理学部生物学科　→　〒 071-1522　北海道上川郡東神楽町ひじり野北 2 条 3 丁目 2 番 12 号

保田　直子　〒 062-0054　札幌市豊平区月寒東 4 条 17 丁目 14-1-201　→　〒 062-0042　札幌市豊平区福住 2 条 1 丁目 5-5-206

松井　宏光　〒 790-8531　松山市桑原町 3-2-1　松山東雲短期大学生物　→　〒 790-0827　松山市鉄砲町 1-7　NPO 森からつづく道

森野　敏彰　〒 262-0047　千葉市花見川区長作台 2-25-5　メゾン KS201　→　〒 262-0047　千葉市花見川区長作台 1-12-12

村上　雄秀　〒 220-0073　横浜市西区岡野 2-12-20 横浜西合同庁舎 3F　国際生態学センター　→　〒 222-0033　横浜市港北区新横浜 2-14-27 新横浜第一ビルディング 3 階　（公財）IGES 国際生態学センター

小原　静　〒 861-2231　熊本県上益城郡益城町大字安永 506-1-201　→　〒 861-2233　熊本県上益城郡益城町惣領 1482-1

山田　浩雄　〒 069-0836　北海道江別市文京台緑町 561-1　森林総合研究所・林木育種センター北海道育種場　→　〒 319-1301　茨城県日立市十王町伊師 3809-1　森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部

御影　雅幸　〒 920-1192　金沢市角間町　金沢大学大学院自然科学研究科（薬学部附属薬用植物園）　→　〒 243-0034　神奈川県厚木市船子 1737　東京農業大学農学部バイオセラピー学科

広木　詔三　〒 441-8522　豊橋市町畑町 1-1　愛知大学国際コミュニケーション学部　→　〒 453-8777　名古屋市中村区平池町 4-60-6　愛知大学国際コミュニケーション学部

矢ヶ崎朋樹　〒 220-0073　横浜市西区岡野 2-12-20 横浜西合同庁舎 3F　国際生態学センター　→　〒 222-0033　横浜市港北区新横浜 2-14-27 新横浜第一ビルディング 3 階　公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター

山本　伸子　〒 700-0005　岡山市理大町 1-1　岡山理科大学大学院総合情報研究科　数理・環境システム専攻　→　〒 260-0852　千葉市中央区青葉町 955-2　千葉県立中央博物館　生態学・環境研究科

植物地理・分類学会 2015 年度大会のお知らせ

植物地理・分類学会 2015 年度大会は 5 月 30 日，31 日に三浦憲人氏にお世話になり島根県出雲市において開催します。6 月 1 日にはオプションナルツアーとして，隠岐島の観察を計画しています。詳細が決定いたしましたら，参加申し込み等のご案内を学会ニュースでお知らせいたします。

1. 会場（予定）
   宍道湖グリーンパーク　ホシザキ野生生物研究所　実習室（島根県出雲市園町 1664-2）
2. 日程（予定）
   5 月 30 日（土）午後：総会，学会賞授賞式，受賞記念講演会，一般講演，懇親会
   5 月 31 日（日）エクスカーション：島根半島，宍道湖周辺で植物観察，
   JR 松江駅で解散後，オプショナルツアー参加者は七類港に移動し隠岐島西郷へ
   6 月 1 日（月）オプショナルツアー：隠岐島の植物観察，夕方に七類港で解散

植物地理・分類学会 2014 年度大会

植物地理･分類学会 2014 年度大会は 5 月 31 日（土）～ 6 月 1 日（日）に富山県中央植物園（富山市）において，中田政司園長，志内利明氏にお世話いただき開催された。同園は，富山市の中央を流れる神通川の西岸（富山空港の対岸）にあって，大きな池を囲む広い屋外展示園と制御環境の異なる複数の立派な展示温室，研修設備の整った管理研修棟が整備されており，本学会の大会会場に好適な環境であった。

まず，午後 1 時から第一研修室において総会を行った。綿野泰行会長から挨拶があった後，議長に中田政司氏を選出し，議事に入った。最初に，2013 年度活動報告として，庶務幹事から以下の事項について報告があった。

・会員状況（2013 年度末）：個人 542 名（うち学生 31 名，特別 11 名），21 団体
　　＊ 2012 年度末：個人 550 名（うち学生 29 名，特別 12 名），20 団体
・大会開催：2013 年 6 月 1 日，福島県民の森フォレストパークあだたら
　　（福島県安達郡大玉村）
・エクスカーション実施：2013 年 6 月 2 日，フォレストパークあだたら
・学会賞表彰：2013 年度学会賞授与（学会賞 : 湯澤陽一氏，奨励賞 : 三浦憲人氏）
　　2014 年度学会賞選考（応募締切 2013 年 10 月 31 日）
　　選考委員（加藤（委員長），古池，御影，永益，山田）
・会誌発行：植物地理・分類研究 vol.60.no.1,2，vol.61.no.1
・総会開催：2013 年 6 月 1 日，フォレストパークあだたら
・評議員会開催：同上
・幹事会開催：2013 年 4 月 7 日（金沢勤労者プラザ），
　　6 月 1 日（フォレストパークあだたら）
　　＊学会運営に関わる協議はメールにより随時実施
・その他：会員名簿作成

続いて，会計幹事から 2013 年度会計報告（本誌別ページ掲載）が配布資料に基づいて行われ，監査員の本多郁夫氏より監査報告があった。参加者の拍手により活動報告と会計報告は承認された。次に，2014 年度の活動計画が庶務幹事から，予算案が会計幹事から提案され，拍手により賛成多数で承認された。

次に，会長より，2015 年度の大会開催地について，三浦憲人氏にお世話いただき，島根県出雲市において開催したいとの提案があり，拍手で承認された。

以上をもって，総会を閉会した。

午後 1 時 40 分から同会場にて，2014 年度の学会賞授賞式が行われ，加藤雅啓選考委員長より，学会賞は佐藤卓氏，奨励賞は谷友和氏に決定したことが，両氏の業績を紹介し報告された（本誌別ページ参照）。続いて，会長より賞状と副賞の贈呈があり，その後，両氏の受賞記念講演を拝聴した。まず，佐藤氏が「富山県の森林群落について」と題し，長年の地道な調査により把握された代表的な林分の構成種，構造，立地環境を，豊富な図と写真に基づいて解説され，継続中の主要林分の生産と更新の調査についても成果を紹介された。次に，谷氏が「落葉広葉樹林における大型林床植物の成長戦略」と題し，オオウバユリの鱗茎とシュートの構造，ウバユリとオオウバユリの成長特性と繁殖開始サイズ，オシダの越冬葉の役割などについて，緻密な調査データに基づく考察を解説された。講演後の活発な質疑応答が両氏の研究の興味深さ，価値を示し，更なる研究の発展を期待させる講演であった。

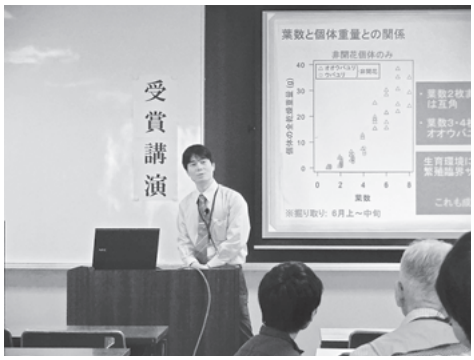
続いて，午後 4 時から一般講演が行われた。演者と演題は以下の通りである。

1. 石澤岩央（富山県中央植物園友の会植物誌部会）・大原隆明（富山県中央植物園）・太田道人（富山市科学博物館）・中田政司（富山県中央植物園）：富山県植物誌の改訂をめざして
2. 岩坪美兼・小林　萌（富山大学）：スイバ核型の地理的変異
3. 壷内巧馬（金沢大学大学院自然科学研究科）・木下栄一郎（金沢大学環日本海センター）：Aucuba japonica Thunb.2 変種の繁殖特性の比較
4. 伊藤玄（岐阜大学大学院連合農学研究科）・須山知香（岐阜大学教育学部）：国内外来種オオシマザクラと在来種ヤマザクラの交雑個体を岐阜県で初確認
5. 橋本光政（兵庫県姫路市）：兵庫の花（フロラ）の解明の歴史はコヤスノキから始まる

6. 山田茉莉子・山田敏弘（金沢大学理工研究域自然システム学系）：絶滅種フジイマツの系統的位置づけ
7. 藤原 泰央（千葉大大学大学院理学研究科）・岩科司・松本定（国立科学博物館植物研究部）・上原歩（慶応義塾大学法学部）・北島潤一（昭和薬科大学）・綿野泰行（千葉大学大学院理学研究科）：ヌリトラノオにおける隠蔽種の認識

一般講演終了後，会場をホテルグランテラス富山に移して，午後 7 時近くから懇親会が開催された。富山の郷土料理，日本海の新鮮（きときと）な魚介類をはじめとする素敵なオードブルと美味しい地酒を味わいながら，講演への質問の続きから，各自の地元の植物や，最近の調査結果など，話題は尽きず，会場の予約終了時間がいつの間にか訪れ，翌日のエクスカーションを楽しみに閉会となった。

（庶務幹事　五百川裕）



受賞される佐藤氏（左）と谷氏による受賞講演（右）

2014 年度大会　エクスカーション報告

2014 年度のエクスカーションは，富山県の森林を代表する有峰で行われた。6 月 1 日午前 8 時，前日の懇親会の会場となったホテル前に集合し，バスに乗り込んだ。植物談議に花が咲いた前日の疲れか，バス内は比較的静かであったが，私はまだ見ぬ植物たちへの期待にドキドキしていた。

出発から 1 時間半ほどして，本日開通日という有峰林道に入った。さすがにここまでくると，景色はすっかり山の中であった。しかも一面の広葉樹林。人工の針葉樹林に見なれた私にとっては，既に軽く感動を覚える光景だった。

10 時 20 分頃，最初の観察地である冷夕谷（つべただに）遊歩道に到着した。この日，富山市県は 6 月上旬にもかかわらず気温 30℃近くを観測した。しかし，道中見えた立山，槍ヶ岳は山頂部に雪が残っていたので，有峰の気温は抑えられるかと期待していた。結局，暑いことに変わりはなかったが，早速，富山県の森林群落に詳しい佐藤先生に全体の案内をして頂きながら遊歩道に入った。

冷夕谷は湿性地が中心であった。有峰三名花の一つであるミズバショウをはじめ，エンレイソウ，イワカガミ，ヒメザゼンソウなどが生育していた。ミズバショウは葉に斑入りの個体もちらほらとあった。まるでトラ模様の葉はよく探せば見つかる程度で，私も教えていただくまでわからなかった。しかし暗緑色の斑とは珍しかった。

不勉強な私であるが，今大会で知り合った同郷の先生方に，丁寧に種名や特徴を教えていただいた。教えていただかなかったら，それからしばらくして出会ったネコノメソウ，ツルネコノメソウ，ホクリクネコノメソウは見分けがつかなかったであろう。残念ながら‘ネコの目’に見えるという裂開した果実には，お目にかかれなかったが，ネコノメソウ属だけで 3 種もみられてうれしかった。

散策の途中，有峰湖とその先の薬師岳が一望できるところがあり，絶景であった。水面と広葉樹林とわずかに雪が残る山岳の組み合わせは，この時期ならではと思う。現在，私のケータイの壁紙である。

その先に立派なウダイカンバが 1 本，そびえ立っていた。参加者が皆，その雄大さに唸っていたのが印象深かった。

この日は運よく，長靴なしでも歩ける地面のコンディションであったが，唯一小さな沢を越えなければなら

なかった。ぬれずにわたるのに苦労したが，かまわず入っておられる方もいて，フィールドを調査する人のたくましさをこんなところでも感じた。

その先には，ワサビ，フデリンドウ，アマドコロなどにお目にかかった。ワサビと聞くと栽培しているところしか見たことがなかったが，自生があるとは驚いた。是非かじってみればよかったと後悔している。

このあたりでアズマシロカネソウにも出会った。我々が普段生活する太平洋側にはない種で，日本海側ならではとのことであった。とはいえ私はこの時はじめて，この種の存在を知り，最初は何とも地味で小さい花だと思ったが，写真を撮るうち，すっかりこの清楚で華奢な植物にひかれてしまった。是非，再び出会いたい植物である。

1時間半ほどかけて遊歩道を歩き終わり，バスが待つはずの集合場所に到着した。しかし，なぜかバスがこないハプニングに見舞われた。とはいえ有峰の大自然の中，車道の脇にも興味をそそる植物が点在しており，みなさん動じることなく思い思いに植物観察にいそしまれた。道沿いの湿地にはミズゴケが生育していた。

昼食は湖畔で涼しく，キャンプによいところだと話しながらお弁当を食べた。昼食を食べた場所はかつてササユリが群生していたようだが，今は1本もないということだった。盗掘が主な原因とのことだが，有峰でもそうなのかと残念な気分になった。ここではミノボロスゲを教えて頂いた。

13時半頃，2か所目の観察地である東西半島遊歩道に到着した。到着して早々，オオバブナなるブナを佐藤先生に説明していただいた。本当に葉が大きく，どうやらブナの日本海型らしいが，通常のブナも有峰にあるとのことでその分布に興味がわいた。

東西半島遊歩道は，針葉樹林が見られる場所であった。コメツガ，ゴヨウマツ，チョウセンゴヨウ，アカマツが見られた。とくにチョウセンゴヨウとアカマツが一緒に見られる場所はほかにないということだった。何故珍しいか詳しくは失念してしまったが，チョウセンゴヨウの分布は最終氷期の植生の手掛かりになるということで，非常に興味をそそられる種である。

このチョウセンゴヨウとアカマツが同時に見られるポイントで引き返し，14時半ごろ解散した。バスで来た道を戻ると，有峰がどんなに別世界だったかと痛感した。平野部のイネの新緑は魅力があるが，オオキンケイギクやキショウブなど，帰り道は外来種がよく目に付いた。そういえば，有峰では外来種をみなかった。有峰の自然がこれからも素晴らしいままである事を願うばかりである。

（岐阜大学大学院　　伊藤　玄）

エクスカーション参加者

冷夕谷遊歩道の入り口で佐藤氏より有峰の植生の概要を説明していただく

斑入りのミズバショウ

エンレイソウ

ホクリクネコノメソウ

アズマシロカネソウ

オオバブナ

有峰湖と薬師岳

2014 年度植物地理・分類学会賞受賞者の選考について

2014 年度植物地理・分類学会の受賞者は，学会賞選考委員会による厳正な選考の結果，下記のように決定いたしました。

植物地理・分類学会賞
受賞者　佐藤　卓
植物地理・分類学会奨励賞
受賞者　谷　友和

佐藤卓氏は富山県の高等学校で約 30 年間，教員として務める傍ら，56 編の研究論文，9 冊の著書などを著し，数々の目覚ましい業績を上げた。その中の 12 編の論文を「植物地理・分類研究」に発表し，本学会に大きく貢献した。研究は, バラ科キジムシロ属, ゴヨウマツ類, ハイマツ, ブナ林, トチノキ林などを対象として, 分類から分布，群落構造の解明まで幅広く取り組まれ，富山県の植物ばかりでなく，日本海要素の植物，さらにはボルネオの植物にも及んでいる。これらの研究は，大学教員・高校教員などによって組織される「富山県生物学会」での活動の成果でもある。長年，同会の理事・副理事長を務めて，教育者として富山県の植物研究と若手養成に貢献した。

以上のように，佐藤卓氏の業績は，植物地理学および植物分類学の分野において学術的見地からまことに顕著であると共に，本学会の発展に大きく貢献されており，植物地理・分類学会賞を授賞するのにふさわしいと評価した。

谷友和氏は北海道大学学生時代から現職の上越教育大学まで一貫して，落葉樹林の林床植物の成長と繁殖に関する生態学的研究を行って，これまで学位論文を含む 15 編の論文を発表した。そのうちには単著・共著を含む 3 編を「植物地理・分類研究」に発表している。「植物地理・分類研究」に掲載された研究では，オオウバユリ・バイケイソウの生活史についてこれまでの定説を覆す発見を行った。さらに関連した課題の研究成果について昨年度の本会大会で一般講演し，研究が着実に発展している。

以上のように，谷氏の業績は植物地理学および植物分類学の分野において学術的見地から顕著であり，今後の研究の発展が期待できることから，植物地理・分類学会奨励賞を授賞するにふさわしいと評価した。

両氏には, 今後とも一層研究に邁進されることを期待すると同時に, 本学会においても活躍されることを願ってやまない。

2013 年 12 月 27 日
植物地理・分類学会賞選考委員会

植物地理・分類学会　会則

第１条　本会は，植物地理・分類学会と称する。

第２条　本会は，植物系統分類学，植物地理学，植物生態学および植物自然史関連分野の進歩普及を図り，あわせて会員相互の連絡および親睦を図ることを目的とする。

第３条　本会は，前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会，講演会，シンポジウム，観察会等を開催する。
2. 会誌その他の出版物を刊行する。会誌「植物地理・分類研究」は原則として年２回発行する。
3. 植物系統分類学，植物地理学，植物生態学および植物自然史関連分野に関係した調査，研究の業績，または教育的な貢献が著しい会員を表彰する。

第４条　本会の事業年度は４月１日に始まり３月 31 日に終わる。

第５条　会員は普通会員，学生会員，団体会員，賛助会員および特別会員とする。

1. 普通会員，学生会員，団体会員および賛助会員は，本会の趣旨に賛同し，それぞれ所定の会費を納める個人または団体。
2. 特別会員は，本会の発展に著しい功績のあった個人で，幹事会の議を経て会長が推薦し総会の承認を受けた者。特別会員は会費の納入を要しない。

第６条　普通会員，学生会員，団体会員および賛助会員は，会費を前納（前年度の３月末日まで）しなければならない。なお，納入された会費は返付しない。

第７条　会員は，会誌の配布を受け，あわせて会誌に投稿すること，ニュースレターの配布を受けること，本会主催の諸会合に出席することができる。

第８条　新しく会員になろうとするものは，当年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこと。退会する場合は本会事務局に届け出なければならない。会費に滞納があるときは，未納分を納めなければならない。

第９条　会員が次の各項に該当するときは，幹事会の議決を経て次の措置をとることができる。

1. 本会の名誉を著しく傷つけ，または本会の目的に反する行為のあったときは，除名する。
2. 会費を２年間滞納したときは，除籍する。

第 10 条 本会の最高決定機関として総会を置く。総会は毎年１回開催する。総会での議決は出席者の過半数の賛成を以て行う。ただし会則の改正には出席者の 2/3 以上の賛成を要する。

第 11 条 本会に幹事会を置く。幹事会は本会の運営を行う。幹事は会長，庶務幹事，会計幹事，編集委員長各１名，およびその他若干名とし，総会において選出する。これらの役員の任期は２年とする。

第 12 条 本会に編集委員会を置く。編集委員会は編集委員長，主任編集委員および編集委員で構成し，編集委員長がこれを代表する。主任編集委員１名，編集委員は若干名とし，編集委員長が幹事会にはかって委嘱する。委員の任期は２年とする。

第 13 条 本会に評議員会を置く。評議員会は会長の諮問に応じ，会務の重要事項を審議する。評議員会は総会において選出された評議員若干名で構成し，任期は２年とする。

第 14 条 本会に監査員を２名置く。任期は２年とし，総会において選出する。

第 15 条 本会の会長は，必要に応じて，特定の事項を審議する委員会を設けることができる。

第 16 条 この会則についての細則は，総会の議決を経て，別に定める。

付則．1. この規約は 1990 年６月２日から施行する。

付則．2. 第 12 条の規定に関わらず会長は編集委員長を兼ねることができる。

付則．3. この規約は 2001 年６月２日から施行する。

付則．4. この規約は 2002 年６月１日から施行する。

付則．5. この規約は 2005 年６月４日から施行する。ただし 2005 年度は，第４条の規定に関わらず事業年度は 2005 年１月１日から 2006 年３月 31 日とする。

付則．6. この規約は 2013 年６月１日から施行する。

植物地理・分類学会からのご案内

1. 入会方法

1）本学会に入会を希望される方は，①氏名（フリガナ，英語表記），②生年月日，③連絡先（郵便番号，住所，電話番号，FAX 番号，E-mail アドレス），④入会希望年度，⑤キーワード 5 語以内（研究課題，興味ある分類群・地域など）を記載し，郵便，FAX，または電子メールで下記まで送付ください。なお，学生の方は，所属の欄にその旨を記載いただき，学生であることを証明するもの（学生証の写し，または指導教員記載の証明書）を入会申込書に添えてください。学会ホームページ（http://raicho.sci.u-toyama.ac.jp/~phytogeotaxo/）の入会案内から申込書をダウンロードして記入いただいてもけっこうです。

申込先：会計幹事　中野真理子

（〒 920−1147　金沢市銚子町リ 441 番地　石川県立自然史資料館）

TEL 076−229−3450（代表）／ FAX 076−229−3460 ／ E-mail：nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

2）同時かまたは数日以内に，個人会員の場合は，年会費 4000 円（学生会員 1000 円），団体会員は 6000 円を，郵便振替口座 00760−0−904 番，植物地理・分類学会宛に振り込んでください。

2. 雑誌の購読，バックナンバー，当会発行書籍に関するお問い合わせ

会計幹事　中野真理子

（〒 920−1147　石川県金沢市銚子町リ 441 番地　石川県立自然史資料館）

TEL 076−229−3450（代表）／ FAX 076−229−3460 ／ E-mail：nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

3. 住所変更など会員の異動に関するご連絡

会計幹事　中野真理子

（〒 920−1147　石川県金沢市銚子町リ 441 番地　石川県立自然史資料館）

TEL 076−229−3450（代表）／ FAX 076−229−3460 ／ E-mail：nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

4. 引用許可申請に関するお問合せ

本号末尾に掲載の様式で「引用許可申請書」を作成し，許可を得てください。なお，同様式は本会誌各巻 2 号にも掲載されています。

申請書送付先：庶務幹事　五百川 裕

（〒 943−8512　新潟県上越市山屋敷町 1 番地　上越教育大学学校教育学系）

TEL & FAX 025−521−3430 ／ E-mail：iokawa@juen.ac.jp

5. 投稿に関するお問い合わせ

編集委員長　山田敏弘

（〒 920−1192　金沢市角間町　金沢大学理工研究域自然システム学系）

TEL & FAX 076−264−6207 ／ E-mail：nymphaea@staff.kanazawa-u.ac.jp

6. その他のお問合せ

庶務幹事　五百川 裕

（〒 943−8512　新潟県上越市山屋敷町 1 番地　上越教育大学学校教育学系）

TEL & FAX 025−521−3430 ／ E-mail：iokawa@juen.ac.jp

投稿規定

（2011 年 3 月部分改定）

編集方針

「植物地理・分類研究」は，植物地理・分類学会機関誌として年 1 巻（2 号）刊行される。本会誌は，総説，論文，短報，ノート（新産地情報，観察記録等の雑録）のほか，新刊紹介，追悼文，その他編集委員会が掲載を認めたものを掲載する。本文は日本語または英語を使用。

投稿資格

「植物地理・分類研究」に投稿する者は，原則として本会会員（共著の場合は 1 名以上の本会会員を含む）に限る。

原稿の受付

原稿は，投稿規定に従って書かれたものに限り受付ける。

原稿の審査及び採否

投稿された原稿は，原則として 2 名の審査員が審査し，その意見のもとに，編集委員会が採否を決定する。

論文等の受理

原稿が編集委員会に届いた日をもって受付日（received），編集委員会が掲載を可とし，編集委員長がそれを認めた日をもって受理日（accepted）とする。なお，掲載順は編集委員会によって決定する。

著作権

本誌掲載の論文，短報，ノート，その他の著作権は，植物地理・分類学会に帰属する。著者は，著作権を委譲する旨の書類を，最終原稿送付時に本学会に提出する。

論文等の長さ

本論文は，刷り上がりで，図表を含み 8 頁までとする。短報とノート（雑録）は 4 頁までとする。ただし超過頁の組版代（1 頁につき 6,000 円）を著者で負担する場合には制限しない。

原稿の送付

a　紙原稿の場合：本稿 1 部のほか，コピー 2 部，合計 3 部を提出する。その際，表・図は 3 部ともに鮮明なコピーを送ること（写真については，原図を写真に撮ったものか，または審査に使用し得る程度の鮮明な写真コピーとする）表・図の原図は，掲載決定後の最終原稿とともに送付する。

b　電子投稿の場合：本文，表，図とも原則として PDF ファイルとし，電子メールに添付して下記編集委員会あて送付する。本文と図の説明には，頁番号および連続行番号をつけること。添付ファイルのサイズは 5MB 以下とし，超過する場合は分割して送付する。

原稿の書き方

本論文は, ①著者名と表題（和英両方）, ②所属, 住所, および連絡先メールアドレス（任意）, ③ Abstract（英文で 250 語以内），④英語のキーワード（表題にない 5 個以内の語句でアルファベット順），⑤本文，⑥引用文献の順序で構成するものとする。短報は，①著者名と表題（和英両方），②所属，住所，および連絡先メールアドレス（任意），③本文，④引用文献の順序で構成するものとする。本論文・短報は，英文の場合，さらに和文の摘要を付けること。短報が和文の場合，英文の Summary を付けることも可。ノート（雑録）は，英和両文で著者名と題名を付け，所属，住所，および連絡先メールアドレス（任意）を末尾に付ける。ノートが英文の場合，和文の摘要を付けることも可。本論文・短報・ノートとも，場合により Appendix を付けることも可。著者が複数である場合，責任著者（corresponding author）の氏名と連絡先をアスタリスク（*）で明示する。本文中で使用する単位は，国際単位系（SI）に限る。

原稿の用紙

英文原稿は, A4 判用紙に上下 3cm 程度, 左右 2.5cm 程度あけ, ダブルスペースで 25 行を原稿の 1 頁とする。和文原稿の場合は，原則として日本語ワードプロセッサーを使用し，A4 判の用紙に周囲それぞれ 3cm 程度の余白を取ったうえで，30 字× 30 行程度を原稿の 1 頁として作成する。手書きの場合には，A4 判 400 字詰め原稿用紙を用いること。

図と写真

図および写真は，そのまま印刷できるようにレイアウトして，堅い A4 判の台紙にはりつけること。裏面には著者名と図番号，天地，縮小率を明記すること。写真は原寸大，図は 67％縮小程度が望ましい。A4 判に納

めることが不可能な植生表のような場合には，A4 に分割したコピーを添えること。図にはスケールを表示し，図の記号，数字には文字を貼り込むこと。図は原則として刷り上がりで 15cm（頁幅）× 19cm 以内または 7cm（半頁幅）× 19cm 以内（いずれも幅×高さ）であること。

和文原稿の図表および写真の説明は，英文，和文，英文和文併記のいずれでもよい。図の説明文は，図中には入れ込まず，独立した原稿として用意すること。なお，図表は希望の挿入位置を原稿中に指示すること（著者による図表などの縮小率や位置の指定は，編集委員会において若干変更する場合があります）。当面，カラー写真は，1 点（組写真でも可）に限り組版料無料。2 点目からは実費負担（1 点につき 40,000 円）。特殊な図表は，実費を著者で負担する場合に限り掲載する。

学名および標本庫の表示

学名は，現行の国際植物命名規約（ICBN）に従い，属名および種と種以下の分類群の形容語のみをイタリックで表示する。本文中では学名以外はイタリックを使用しない。学名は初出時に命名者名を付ける。命名者名は，省略形を使用する場合，Brummit, R. K. and Powell, C. E.（eds）. 1992. Authors of Plant Names.732pp. Royal Botanic Gardens, Kew または The International Plant Names Index のホームページ（http://www.ipni.org/）に従う。栽培植物の学名は，最新版の国際栽培植物命名規約（ICNCP）に従う。標本庫の略語は Holmgren, P. K., Holmgren, N. H. and Barnett, C. B.（eds）. 1990. Index Herbariorum 8 ed. 693 pp. New York Botanical Garden, New York または Index Herbariorum のホームページ（http://sciweb.nybg.org/science2/IndexHerbariorum.asp）に従う。

文献の引用

引用文献は，ウェブサイトを含め本文中に引用したすべてを記さなければならない。文献の配列順序はアルファベット順とし，一件ごとに改行する。すなわち，第 1 著者の異なるものはアルファベット順とし，姓が同じ場合は名のアルファベット順とする。第 1 著者が同一の場合には，単独のものを最初とし，そのあとは，第 2 著者の氏名のアルファベット順とする。第 2 著者も同一の場合は，第 3 著者以下について上記に準じる。著者が同一のものについては，発表の年代順とする。同一著者，同一年代のものは，年号のあとに小文字のアルファベットを付して，1999a，1999b のように区別する。著者が 3 名以上で第 1 著者が同じである場合は，他の著者が異なっているときでも年号のあとにアルファベットを付して区別する。なお本文中での引用は，石川（1999）もしくは（Toyama 1999）のように著者名と発表年を用いる。なお著者が 2 名の場合，石川・富山（1999），（Ishikawa and Toyama 1999），3 名以上の場合，石川他（1999），（Toyama et al. 1999）の形式を用いること。

a　雑誌の場合：著者名（姓前名後とし，すべての著者名をあげる），年号，論文表題，雑誌名，巻数（太字）：頁とし，通し頁でない場合のみ巻数の次に丸括弧で号数をあげること。

石川太郎．1989．日本産イネ科の系統分類．地理分類研究 **25**: 33–42.

Ishikawa, T. and Toyama, J. 1990. Two new species of *Poa*（Gramineae）from Japan. J. Jpn. Bot. **65**: 4–12.

富山次郎．1991．富山県産イネ科目録．イネ科研究レター（**52**）: 8–9.

b　単行本の場合：著者名（a に同じ），年号，表題，引用頁，発行所，発行地の順とする。なお発行地が複数の場合は一箇所のみとする。分担執筆や論文集，報告書等の場合，表題の後に編集者名，書籍表題を付け加えること。

福井三郎・新潟四郎．1989．日本海沿岸地域のエノコログサ属の生態．日本海学術出版会（編）．日本海学術報告書，pp.24–31．日本海大学，新潟.

石川太郎．1981．イネ科の分類．富山書房，東京.

石川太郎．1984．イネ科．富山次郎（編），日本植物誌　Ⅲ，pp.38–78．石川出版，金沢.

Ishikawa, T. 1985a. Taxonomic study of Asiatic Gramineae. Smith and Brown, New York.

Ishikawa, T. 1985b. Morphology in Gramineae. In: Willson H. B., Clemens, A. C. and Backer, I. P.（eds）, Gramineae in the world, pp.23–45. Academia, London.

c　ウェブサイトの場合：掲載者名，確認した年，表題，URL を表示する。

環境省自然環境局野生生物課．2010．「哺乳類，汽水・淡水魚類，昆虫類，貝類，植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」 http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648

なお，引用文献を他言語表記した場合，（in Japanese），（in Japanese with English summary），（in Russian），（in Chinese）等を付記する。

その他，**原稿の体裁については最近号をよく参照のこと。**

最終原稿の送付

審査終了後の最終原稿は，2 部を，電子媒体（フロッピーディスク，CD-R など），表・図の原図とともに郵送する。本文は原則としてワードファイル（.doc），表・図の電子ファイルがある場合は，それぞれエクセルファイル（.xls），JPEG 画像ファイル（.jpg）として 1 点ずつ別ファイルで保存する。写真の解像度は 300dpi 以上であること。なお，電子媒体，表，原図は原則として返却しない。返却希望の場合には，予めその旨を申し出るとともに，宛先を記入した返送用封筒を，最終原稿の送付時に必ず同封すること。

校正

原則として，初校を著者が行い，第 2 校以降は編集委員会の責任において行うものとする。活字は編集委員会が指定するが，特に希望する箇所があれば，鉛筆で記入すること。

校閲

英文論文については，英語を母国語とする外国人の校閲を受けておくことが望ましい。編集委員会で外国人の校閲を受けることがあり，その場合の実費は著者負担とする。

別刷

投稿者は必要とする別刷部数を最終原稿に明記すること。総説，論文，短報，ノートは，50 部は無料，それ以上については実費を徴収する。投稿者（共著の場合は責任著者）には論文の PDF ファイルを配布する。

原稿送付先および編集に関する連絡先

送稿や編集に関係した通信は　〒 920-1192　金沢市角間町　金沢大学大学院自然科学研究科　植物地理・分類研究編集委員会　編集委員長　山田敏弘　TEL & FAX：076-264-6207 ／ E-mail：nymphaea@staff.kanazawa-u.ac.jp。投稿の場合，紙原稿では封筒に「投稿原稿在中」と朱書し，電子投稿では電子メールの表題を「植物地理・分類研究投稿」とすること。

転載許可申請書について

本会誌に掲載された図や写真等の他の印刷物での引用（使用）を希望する場合は，以下のような様式で「引用許可申請書」を作成し，学会の庶務幹事宛（〒 943-8512　新潟県上越市山屋敷町 1 番地　上越教育大学学校教育学系　植物地理・分類学会　庶務幹事　五百川裕）に郵送して，許可を得てください。用紙は A4 を使用し，使用先の出版物等の内容は以下の様式の括弧内の事項を参考に，できるだけ詳しく記載してください。

……..

転載許可申請書

植物地理・分類学会　会長殿

年　　月　　日

貴学会発行の「植物地理・分類研究」に掲載の図表等を転載したく，その許可をお願いいたします。

申請者の住所

氏名　　印

1）使用する「植物地理・分類研究」の巻，頁，著者名，題目，図表の番号

2）著者の許可の有無
（著差の許可が必要です。許可を得ていない場合は，その理由を記してください。例：連絡がつかない，著者死亡等）

3）使用先の出版物等の内容
（雑誌，本，パンフレット等に使用する場合は，発行元，発行予定数，有料･無料の別等を書いてください。）

「北陸の植物」・「植物地理・分類研究」の電子アーカイブ化のお知らせ

2014 年 11 月 1 日

著者各位

謹啓　益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

近年，研究コミュニティのグローバル化に伴い，「植物地理・分類研究」および先行雑誌の「北陸の植物」の電子アーカイブ化（PDF 版の Web 上での公開）を求める声が多く寄せられるようになりました。電子アーカイブ化により，検索・閲覧の利便性が高まるだけでなく，掲載論文等が引用されやすくなり，雑誌の質の向上が期待されます。そのため，多くの学術誌で電子アーカイブ化が行われていることは，ご承知の通りです。

そのような折，金沢大学附属図書館雑誌・電子情報係から，「北陸の植物」および「植物地理・分類研究」の電子アーカイブ化の作業を補助して頂けるとのお話を頂きました。植物地理・分類研究編集委員会は，電子アーカイブ化の可否について，発行主体である植物地理・分類学会の総会に諮りましたが，その結果，「北陸の植物」および「植物地理・分類研究」の電子アーカイブ化を進めることとなりました。

「北陸の植物」および「植物地理･分類研究」に掲載された論文の PDF 版は, 2015 年（平成 27 年）4 月以降, 出版から 6 年以上経過したものについて順次公開していく予定です。論文の PDF 版の公開を希望されない場合は，お手数ですが，その旨を 2015 年（平成 27 年）3 月 31 日までに，植物地理･分類研究編集委員長あて，書面又は電子メールにてご連絡頂きますようよろしくお願い申し上げます。なお，ご連絡がない場合には，論文の PDF 版の公開についてご了承頂いたものとさせて頂きますので，併せてよろしくお願い申し上げます。

謹白

植物地理・分類研究
編集委員長　山田敏弘